

森の家庭料理レストランを

視察

ACTIVE KUMIAI

企業組合ふるさと薬膳森樹



森の家庭料理レストランの前で

企業組合ふるさと薬膳森樹(田中洋子理事長)は、小淵沢町で地元食材を利用した主婦によるレストランとして平成8年にオープン、女性による地域おこし型組合の先進事例として全国から注目を集めた。

開業以来16年が経過し経営環境が変化したことから、新たな経営コンセプトの構築と新業展開を行う

ために、本年度、中央会からの助成を受けて成長戦略推進プログラム支援事業に取り組んでおり、11月5日に組合員、従業員、専門家19名で茨城県の「ポケットファームどきどき・森の家庭料理レストラン」の視察を行った。

視察では、森の家庭料理レストランの田村店長から、地元野菜の調達方法、バイキング方式の料理の提供方法、店舗の運営方法などについて説明を受け、その後、料理に舌鼓を打った。

組合員、従業員からは、「地元の野菜を生かした家庭料理が安心感を出している」「ありふれた素材でも料理のバリエーションが多い」「従業員が自信を持って料理の説明をしている」といった感想が聞かれるとともに、「森樹でもその日に手に入れられる野菜を使って柔軟にメニューを決められるようにしたい」といった抱負もだされた。

組合の成長戦略推進プログラム支援事業では、中小企業診断士の澤さん、野菜ソムリエの芦澤さん、広告企画会社の澤登さんの3人の専門家の連携により、来年2月に新たな店舗コンセプトによるメニュー開発と広告宣伝手法の確立を目指すとしている。



田村店長からの説明を聞く